

学会だより

◇ 令和4年度第2回運営委員会議事録

日時：2022年5月21日（土）13:00～16:00

場所：オンライン開催

出席者：加藤鎌司，中園幹生，佐々英徳，西田英隆，高橋宏和，津釜大侑，半田裕一，吉岡洋輔，久保友彦，北柴大泰，犬飼義明，清水顕史，草場信，川浦香奈子，磯部祥子，辻寛之，堀清純，寺石政義，掛田克行，門田有希，小出陽平【21名】

欠席者：渡邊和男，岩田洋佳，山形悦透【3名】

各運営委員からの活動経過報告の後，以下の事項について審議された。

- ①編集委員の退任（編集英文誌）
- ②懇親会再開の要件，第142回講演会におけるハイブリッド形式のワークショップ（集会）

◇ 令和4年度第3回運営委員会議事録

日時：2022年8月20日（土）14:30～18:20

場所：オンライン開催

出席者：加藤鎌司，中園幹生，佐々英徳，西田英隆，高橋宏和，岩田洋佳，津釜大侑，半田裕一，吉岡洋輔，久保友彦，北柴大泰，犬飼義明，山形悦透，辻寛之，堀清純，寺石政義，掛田克行，川浦香奈子，門田有希，小出陽平【20名】

欠席者：渡邊和男，清水顕史，草場信，磯部祥子【4名】
各運営委員からの活動経過報告の後，以下の事項について審議された。

- ①令和4年度名誉会員推戴および功労賞受賞者の推薦（理事）
- ②「育種学研究投稿規定」の改訂（編集和文誌）
- ③将来の講演会開催方法の検討（集会）
- ④日本学術会議育種学分科会主催・日本育種学会共催の公開シンポジウムの継続（理事）

◇ 第14回代議員会議事録

日時：2022年9月17日（土）13:30～17:30

場所：オンライン開催

（理事・運営委員・監事・各種委員）

出席者：加藤鎌司，中園幹生，佐々英徳，西田英隆，高橋宏和，渡邊和男*，岩田洋佳*，津釜大侑，半田裕一*，吉岡洋輔，北柴大泰*，清水顕史*，山形悦透*，辻寛之，堀清純，寺石政義，掛田克行*，川浦香奈子*，門田有希，小出陽平，奥本裕，久保山勉*，畠山勝徳，

富田因則，経塚淳子【25名】

欠席者：久保友彦*，犬飼義明*，草場信*，磯部祥子【4名】

（代議員）

出席者：大西一光，赤木宏守，阿部陽，北柴大泰*，深井英吾，宇賀優作，福岡修一，石井卓朗，吉田均，久保山勉*，渡邊和男*，佐藤正紀，井澤毅，岩田洋佳*，伊藤純一，川浦香奈子*，掛田克行*，佐塚隆志，古川一実，清水顕史*，半田裕一*，中崎鉄也，山本敏央，藤田大輔，山形悦透*，緒方大輔【26名】

委任状：貴島祐治，金澤章，田中克典，加賀秋人，犬飼義明*，村井耕二，佐藤豊，草場信*，辻本壽【9名】

欠席者：久保友彦*，江花薫子，中村郁郎，有村慎一，那須田周平，松田靖【6名】

*役員・委員と代議員を兼任

議長：代表理事（加藤鎌司）

議事録：運営委員（高橋宏和）

出席者数は代議員会開催の定足数（過半数）を満たしていた。

1. 報告事項

（ア）運営委員会報告（各運営委員）

代表理事：辻寛之氏の選出地区（関東3）外への異動に伴い，次点である川浦香奈子氏が代議員に就任したとの報告があった。

総務：会員数，冊子発行部数，Webサイト・メールニュース，シニア会費制度利用申請，共催・協賛・後援，優秀発表賞投票方法，会議開催予定

IT・HP：新Webサイト公開，アクセス解析結果

科研費：国際情報発信強化（BS科研費），研究成果公開発表（シンポジウム科研費）

会計：2022年度中間決算，年会費のクレジット決済導入の延期，消費税のインボイス制度の影響

編集（英文誌）：編集状況，CC-BY適用，特集号，企画総説，日本育種学会論文賞の選考

編集（和文誌）：編集状況，投稿規定の改訂，投稿原稿作成要領の改訂

集会：2022年秋季大会，今後の大会開催予定，将来の講演会開催方法の検討，他学会情報

農学会：2022年度日本農学会シンポジウム開催，農学賞受賞候補者の推薦募集，2023年度シンポジウム講演内容の募集，「学術の中長期研究戦略」の公募

記者発表：第142回講演会記者発表，記者発表対象課題，記者発表希望演題数，記者発表の調整・開催方法，記者発表担当の役割

LMO・ABS：ゲノム編集に関する意見書の英文化，食料農業植物遺伝資源条約，DSI（GSD）と合成生物学に

関する課題の洗い出し

地域（北海道，東北，中部，近畿，中国・四国，九州・沖縄）：談話会の開催および開催予定，北陸作物育種学会の名称変更（11月1日付で北陸作物育種談話会に変更）

2. 審議事項

(ア) 通常決議議案：令和4年日本育種学会賞の選考について

学会賞等選考委員長より，以下の2課題の日本育種学会賞候補の推薦理由について説明があった。

(1) 藤野賢治（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）「イネ高緯度地域適応戦略に関する遺伝・育種学的研究」

(2) 重イオン育種技術開発グループ（代表：阿部知子，風間裕介，平野智也）（理化学研究所仁科加速器科学研究センター）「重イオンビームによる育種技術の開発」

投票の結果，代議員出席者の3分の2以上の賛成票を得て2件とも承認された。

(イ) 通常決議議案：令和4年日本育種学会奨励賞の選考について

学会賞等選考委員長より以下の3課題の日本育種学会奨励賞候補の推薦理由について説明があった。

(1) 田中若奈（広島大学大学院統合生命科学研究所）「イネの形態形成を制御する発生遺伝学的研究」

(2) 南川舞（千葉大学国際高等研究基幹）「データ科学と統計・分子遺伝学的手法による果樹の効率的な育種基盤の開発」

(3) 津釜大侑（東京大学大学院農学生命科学研究科附属アジア生物資源環境研究センター）「植物の機械的ストレス応答の基礎研究から作物研究への展開」

投票の結果，代議員出席者の3分の2以上の賛成票を得て3件とも承認された。

(ウ) 通常決議議案：第19回（令和3年）日本育種学会論文賞の選考について

学会賞等選考委員長より以下の3報の日本育種学会論文賞候補の推薦理由について説明があった。

(1) Sat-BSA: an NGS-based method using local *de novo* assembly of long reads for rapid identification of genomic structural variations associated with agronomic traits

掲載巻（号）・頁：Breeding Science 71(3): 299–312

著者：Tenta Segawa, Chisato Nishiyama, Muluneh Tamiru-Oli, Yu Sugihara, Akira Abe, Hinako Sone, Noriaki Itoh, Mayu Asukai, Aiko Uemura, Kaori Oikawa, Hiroe Utsushi, Ayako Ikegami-Katayama, Tomohiro Imamura, Masashi Mori, Ryohei Terauchi, Hiroki Takagi

(2) Strawberry fruit shape: quantification by image analysis and QTL detection by genome-wide association analysis

掲載巻（号）・頁：Breeding Science 71(2): 167–175

著者：Shiro Nagamatsu, Masao Tsubone, Takuya Wada,

Koichiro Oku, Miyuki Mori, Chiharu Hirata, Atsushi Hayashi, Takanari Tanabata, Sachiko Isobe, Kinuko Takata, Katsumi Shimomura

(3) Breeding and characterization of the world's first practical rice variety with resistance to brown spot (*Bipolaris oryzae*) bred using marker-assisted selection

掲載巻（号）・頁：Breeding Science 71(4): 474–483

著者：Kengo Matsumoto, Yuya Ota, Tomohiro Yamakawa, Teppei Ohno, Satomi Seta, Yuto Honda, Ritsuko Mizobuchi, Hiroyuki Sato

投票の結果，代議員出席者の3分の2以上の賛成票を得て3件とも承認された。

(エ) 通常決議議案：名誉会員の推戴について

矢野昌裕氏の名誉会員推戴が提案された。投票による審議の結果，代議員出席者から多数の賛成票を得て承認された。

(オ) 通常決議議案：功労賞受賞者の推薦について

申し送り事項の各項に該当する下記の候補者が推薦された。

第3項：久保山勉氏，草場信氏

第4項：江面浩氏

投票の結果，代議員出席者の3分の2以上の賛成票を得て全員が承認された。

3. その他

(ア) 関連報告

①学会賞等選考委員会

日本農学賞，学会賞および奨励賞について積極的な推薦の依頼があった。

②シンポジウム委員会

第142回講演会において開催される第63回シンポジウムおよびワークショップの報告があった。

③男女共同参画推進委員会

第142回講演会において開催されるランチタイムセミナーの報告があった。

④日本学術会議育種学分会委員

公開オンラインシンポジウム「地球の未来を切り開く一育種学の役割」(全3回)の開催報告があり，好評を受けて継続を検討中とのことであった。また，日本学術会議が公募している「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の説明があり，加藤会長から，育種学分野の将来のビジョンを示す意味でも学会として応募を検討したいとのコメントがあった。

⑤公益財団法人農学会農学教育推進委員会委員

JABEE認定プログラムの審査活動およびJABEE修了生の技術士第二次試験受験状況の報告があった。

(イ) その他

①「育種学最近の進歩」のアーカイブ化について

現状の報告があり，引き続き情報収集と検討を進めることになった。

②第 142 回講演会優秀発表賞の選考について
総務担当から優秀発表賞の投票依頼があった。

◇ 第 142 回講演会選定課題記者発表報告

発表日時：令和 4 年 9 月 14 日（水）13:00～14:30

発表場所：オンライン開催

出席者：佐々英徳（幹事長）、津釜大侑（記者発表担当運営委員）、西山典秀（課題 1）、井澤毅（課題 1）、今井亮三（課題 2）、小林麻子（課題 3）、田口和憲（課題 4）
参加報道機関：NHK、日本農業新聞、化学工業日報、十勝毎日新聞、科学新聞の計 5 社・8 名

令和 4 年 9 月 23 日（金）、24 日（土）に開催される日本育種学会第 142 回講演会の講演課題（計 204 課題）の中から運営委員会によって選定された以下の 4 課題について、記者会見を実施した。

発表タイトル（記者発表）：

- (1) 江戸時代に中国から日本に導入されたと考えられているモウソウチクが、中国のどの地域からどのように持ち込まれたのかを推定
- (2) 用途拡大に向け、オオムギ粉にグルテン様ネットワークを形成させることに成功～ゲノム編集を使って種子タンパク質ホルデインを改変～
- (3) 水稲新品種「新福 1 号」の紹介～白米中の食物繊維含量がコシヒカリの 3.3 倍～
- (4) カンショ（サツマイモ）新品種「ゆきこまち」、「あまはづき」の紹介

講演タイトル（第 142 回講演会）：

- (1) 講演番号 105 『日本のモウソウチクの由来に関する解析』西山典秀¹、松本隆²、篠澤章久^{2,3}、井澤毅¹（1. 東大院・農学生命科学、2. 東京農大・バイオサイエンス学科、3. 東京農大・生物資源ゲノム解析センター）
 - (2) 講演番号 425 『グルテン形成オオムギの作出 II. ゲノム編集によるコムギグルテニン様構造を持つホルデインの創出』手塚大介¹、池田達哉²、関昌子³、長嶺敬³、中野友貴³、今井亮三¹（1. 農研機構・生物機能利用研究部門、2. 農研機構・西日本農業研究センター、3. 農研機構・中日本農業研究センター）
 - (3) 講演番号 512 『白米中にコシヒカリの約 3 倍の食物繊維を含有する新品種「新福 1 号」の育成』小林麻子¹、西村実^{2,3}、中岡史裕¹、富田桂¹、町田芳恵¹、両角悠作¹、森田竜平²、渡辺脩斗¹、林猛¹、清水豊弘¹、佐藤有一¹、佐藤信仁¹、堀清純²（1. 福井農試、2. 農研機構、3. 新潟大学）
 - (4) 講演番号 513 『収穫直後から甘いカンショ新品種「あまはづき」の育成』西中未央¹、田口和憲¹、片山健二²、藏之内利和³（1. 農研機構・中日本農業研究センター、2. 農研機構・北海道農業研究センター、3. 農研機構・作物研究部門）
- 講演番号 514 『カンショ栽培の北限に挑む多収、高品質

品種「ゆきこまち」』田口和憲¹、西中未央¹、片山健二²、石黒浩二²、藏之内利和³（1. 農研機構・中日本農業研究センター、2. 農研機構・北海道農業研究センター、3. 農研機構・作物研究部門）

記者発表の報告：

佐々幹事長が諸注意を述べた後、それぞれの課題の発表者がレジュメを用いて発表内容について自ら説明し、質疑応答を行った。記者会見後、講演番号 425 に関する記事が、科学新聞（10/21）に掲載された。また、講演番号 512 に関する記事が、日本農業新聞（9/15）、福井新聞（9/23）、日刊県民福井（10/9）、食糧ジャーナル（10月号）に掲載され、同内容が FBC テレビ（10/11）、FBC ラジオ（10/13）において紹介された。

◇ 第 142 回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2022 年日本育種学会秋季大会（第 142 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 11 演題に決定された。

講演番号 105：日本のモウソウチクの由来に関する解析
☆西山典秀¹、松本隆²、篠澤章久^{2,3}、井澤毅¹（1. 東大院・農学生命科学、2. 東京農大・バイオサイエンス学科、3. 東京農大・生物資源ゲノム解析センター）

講演番号 217：未来志向のシミュレーションに基づく育種計画における交配戦略の最適化
☆濱崎甲資、岩田洋佳（東京大・院農学生命科学）

講演番号 218：イネ NAM 集団を用いた Genomic Prediction モデルの構築および育種への応用
☆堺俊之¹、寺内良平^{1,2}、阿部陽²（1. 京都大・院・農、2. 岩手生工研）

講演番号 420：TALE ドメインによる DNA 配列認識を介したシロイヌナズナ核遺伝子の標的一塩基置換
☆細田恵子¹、中里一星¹、奥野未来²、伊藤武彦³、高梨秀樹¹、堤伸浩¹、有村慎一¹（1. 東京大・院農生命、2. 久留米大・医、3. 東工大・生命理工学院）

講演番号 607：野生イネ遺伝資源を用いた穂形態の多様性の評価
☆縣歩美、佐藤豊（国立遺伝学研究所）

講演番号 612：オーキシンによるイネ初期胚の非対称性形成
☆手塚拓海¹、Ta Kim Nhung²、佐藤（志水）佐江²、野坂美鈴^{1,2}、服部東穂³、佐藤豊^{1,2}（1. 総研大・生命科学、2. 遺伝研・植物遺伝、3. 名大院生命農学）

講演番号 615：イネのシュート頂メリステムにおける微小管のイメージング系の確立
☆高田峻輔¹、井藤純¹、辻寛之^{1,2}（1. 横浜市立大・木原生物学研究所、2. 名古屋大学・生物機能開発利用研究センター）

講演番号 P004：パンコムギと野生種タルホコムギ交雑由来の新奇 8 倍性合成コムギの創生

☆高燕¹, 松岡由浩², 辻本壽^{1,3}, 岸井正浩⁴, 佐久間俊⁵, 石井孝佳^{1,3} (1. 鳥取大・院持続性社会, 2. 神戸大・農学研究科, 3. 鳥取大・国際乾燥地研究センター, 4. 国際農研, 5. 鳥取大・農学)

講演番号 P011: イネの種子脱粒性喪失に関与した *qSH3* 遺伝子座における変異の役割と多様性

☆沼口孝司, Than Myint Htun, 岡佑美, 小笠原実希, 杉山昇平, 高間菜摘, Chhourn Orn, 井上千鶴, 石井尊生, 石川亮 (神戸大・院・農学)

講演番号 P031: 異なるジェノタイプピンングツールにより得られたリンゴマーカー遺伝子型の統合とゲノミック予測モデルの構築

☆南川舞^{1,2}, 國久美由紀³, 森谷茂樹³, 阿部和幸³, 稲森稔², 岩田洋佳² (1. 千葉大・国際高等研究基幹, 2. 東京大・院農学生命科学, 3. 農研機構・果樹茶業研究部門)

講演番号 P055: オオムギ花序メリステムの細胞死過程における細胞内構造変化

☆松本大輝¹, 井藤純¹, 新井駿一¹, 野村有子¹, 杉村みどり¹, 佐藤奈緒¹, 関緑¹, 若崎真由美², 佐藤繭子², 武田 (神谷) 紀子², 宇野何岸^{4,5}, 佐藤良勝^{4,6}, 最相大輔⁷, 豊岡公德², 辻寛之^{1,3} (1. 横浜市大・木原生物学研究所, 2. 理研・環境資源科学研究センター, 3. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター, 4. 名古屋大学理学研究科, 5. Department of NanoBiophotonics, Max Planck Institute for Multidisciplinary Sciences (MPI-NAT), 6. 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 (WPI-ITbM), 7. 岡山大学資源植物科学研究科)

◇ 地域談話会だより

〈東北地区〉

令和4年9月15日に、第44回岩手育種談話会・第27回植物生命科学セミナーが開催された。今回の談話会は京都大学農学研究科附属農場の元木航氏、岩手生物工学研究センターの清水元樹氏に話題提供していただいた。2年ぶりのオンラインでの開催となり、24名の参加があった。

【開催概要】

1. 元木航氏 (京都大学農学研究科附属農場)
「ダイコンのフロリゲンを利用したキャベツの早期開花技術の開発」

2. 清水元樹氏 (岩手生物工学研究センター)
「イネ抵抗性タンパク質が進化の過程で獲得した病原菌因子を見破るしくみ」

日時: 2022年9月15日 (木) 13:10 ~ 15:00

場所: 岩手大学農学部6番講義室 (農学部南講義棟)

主催: 岩手大学

共催: 岩手農林研究協議会 (AFR) 及び植物生命科学セミナー

世話人: 岩手大学農学部 畠山勝徳

〈近畿地区〉

令和3年秋の公開シンポジウム

近畿作物育種研究会による公開シンポジウムが、2021年12月11日にオンラインで開催された。招待講演4題を含む6演題が行われた。

1. 栽培技術の改変による気候変動への取り組み
飯嶋盛雄 (近畿大学)
2. 遺伝資源拡大による高温乾燥耐性コムギ育種
辻本壽 (鳥取大学)
3. 過湿・乾燥土壌への適応に必要な根のデザイン
中園幹生 (名古屋大学)
4. 土づくりに伴う地力向上と施肥による気候変動への対応
小松茂雄 (滋賀県)
5. 脱炭素社会構築への貢献を目標とした新しい作物育種
佐塚隆志 (名古屋大学)
6. 気候変動と食料システム
長谷川利拡 (農研機構)

令和4年春の例会

近畿作物育種研究会第192回例会が、2022年6月25日にオンラインで開催された。一般講演6題 (口頭発表) で、参加者投票により優秀発表賞は林名月氏 (講演5) に授与された。

1. アズキの狭条密植栽培における麦用除草カルチ機利用の検討

○杉本充¹・岩川秀行²・森大輔³・辻康介⁴・蘆田哲也⁴・田中康久⁵ (1. 京都府農林水産技術センター農林センター, 2. 京都府農林水産技術センター生物資源研究センター, 3. 京都府丹後広域振興局, 4. 京都府庁, 5. 京都府南丹農業改良普及センター)

2. 滋賀県における田畑輪換体系での大豆用高速畝立て播種機 (試作4条機) の導入効果

○川上耕平¹・徳田裕二¹・重松健太²・大野智史³・高山定之⁴ (1. 滋賀県農業技術振興センター, 2. 農研機構・農業機械研究部門, 3. 農研機構・中日本農業研究センター, 4. アグリテクノサーチ株式会社)

3. 小麦新品種「びわほなみ」に適した後期重点施肥技術

○片山寿人・中川寛之 (滋賀県農業技術振興センター)

4. アフリカイネ *Oryza glaberrima* の浮稲反応について

○羅全淑・笹山大輔・畠中知子・深山浩・東哲司 (神戸大院農)

5. 野生イネ *Oryza rufipogon* の洪水に対する応答

○林名月・笹山大輔・畠中知子・深山浩・東哲司 (神戸大院農)

6. 栽培ヒエ (*Echinochloa utilis*) の耐塩性について

○笹山大輔・柿本彩恵子・深山浩・畠中知子・東哲司 (神戸大院農)

研究助成公募等の案内

◇ 公益財団法人タカノ農芸化学研究助成財団
2023 年度研究助成公募のお知らせ

2023 年度研究助成対象者募集要領

本財団は、農学、特に農芸化学（生物資源等）に関する学術研究を助成し、もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました。本年度も、農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し、研究助成金を交付いたします。特に、若手研究者への助成の枠を設け、今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています。2023 年度助成対象者は次の要領で募集いたします。

1. 研究分野：(A) 豆類や穀類の生産技術（栽培、育種、植物栄養、根圏微生物等）に関する研究、(B) 豆類や穀類、並びにそれらの加工品の食品機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能等）に関する研究、(C) 豆類や穀類の加工、保蔵、流通技術に関する研究、並びにそれらの発酵に関連する微生物や酵素の探索、特性、利用に関する研究
 2. 研究助成対象者：(1) 国内の大学、短大の研究者（大学院生も含む）、(2) 国公立並びに国立研究開発法人等の研究機関の研究者、(3) その他本財団の理事会において適当と認められた研究者
 3. 助成金額：(1) 一般部門（年齢制限なし）1 件当たり 100 万円を 7 件程度、(2) 若手部門（40 歳未満）1 件当たり 50 万円を 6 件程度 ※若手部門は、昭和 58 年 4 月 1 日以降生まれの方
 4. 交付時期：2023 年 5 月予定
 5. 申請手続き方法：財団所定の申請書に必要事項を記入の上、2023 年 1 月 15 日から 3 月 10 日（必着）までに財団理事長宛てに郵送して下さい。尚、申請書用紙は、タカノフーズ(株)ホームページ (<http://www.takanofoods.co.jp/>) 内【タカノ財団】からダウンロードできます。または、E-mail にお問合せいただけましたら、書類を添付して返信いたします。
 6. 申請書請求先及び送付先：〒311-3411 茨城県小美玉市野田 1542（公財）タカノ農芸化学研究助成財団 TEL: 0299-58-4363 FAX: 0299-58-3847 E-mail: tazaidan@takanofoods.co.jp
 7. その他：同一研究課題で、他の団体等へ応募され、かつ、本年度重複助成となられた場合には、助成をできない場合がありますのでご注意ください。
- ・ 過去助成研究テーマ検索 <http://www.takanofoods.co.jp/company/foundation/>

日本育種学会会員異動 (2022.04.21～2022.10.20)

- ◇普通会員入会：斉藤涼介、萩原誠司、成廣翼（北海道）、清水元樹（岩手県）、小林恭子（福島県）、河下美都里、手塚大介、今井亮三、朴チョル（茨城県）、柏谷祐樹（栃木県）、白川侑希（埼玉県）、庄山拓磨（千葉県）、古田尚也、篠澤章久（東京都）、山際豊（静岡県）、鈴木翔（愛知県）、堺俊之（京都府）、エディット・オフィオング・ウクポング（鳥取県）、川田ゆかり（宮崎県）、高山和大（鹿児島県）
- ◇学生会員入会：山野薫、高鳥将希、串田栞理、石原萌、田中啓暉、桂直幸、石川梨紗、張霞、谷口英吾（北海道）、澤村匡範、稲田裕介（宮城県）、清水陽哉（秋田県）、山村龍、仲村洋輔、小島健太、大塚梨緒、野村悠華子、鈴木彪吾（茨城県）、小倉輝之、大山晃司（栃木県）、木下青、黒沼咲季、吉岡勇人、神原昂太、細田恵子、佐野春香、DANG TUNG THANH（東京都）、高田峻輔、八代惇、村山ほのか（神奈川県）、八高颯、中澤碧海、五十嵐稔博、尾崎祐介、EZEAH CHUKWUNONSO、忠友弥（新潟県）、西川みなみ、齊賀空知（石川県）、鈴木未来、高森陽斗（長野県）、石黒雄大、利根菜月（静岡県）、李京霞、山田竜寛、窪田千尋、THAN KUTAY SOE（愛知県）、花本将伍、瀬戸将太、古島悠生、陳甜甜、黒川泰暉、須佐見朝日（京都府）、神矢良樹、藤原一将、永柳遥菜、山口雄大、山崎美樹（兵庫県）、鈴木啓剛、日比建瑠（和歌山県）、AHMED MONIR IDRES YAHYA、高燕、樽谷英賢（鳥取県）、張乾、森田真帆（岡山県）、谷本凜生（香川県）、SAW BO DAY SHAR、吉田将基、馬場海希（佐賀県）、朝倉尚也（熊本県）、黄琬媚（宮崎県）
- ◇外国会員入会：SINGH SHOBHIT KUMAR（インド）、YA-PING LIN（台湾）

住所変更等

- ◇普通会員：三嶋賢太郎（岩手県）、安東郁男、吉岡藤治、田中凌慧、栗田学、河合翼（茨城県）、赤坂舞子（栃木県）、町田（平野）僚子、後藤明俊、前田道弘（東京都）、加藤浩、殿崎薫、岡田萌子（神奈川県）、間瀬誠子（静岡県）、辻寛之（愛知県）、石川和也（奈良県）、若生忠幸（熊本県）
- ◇学生会員：岡田脩平（北海道）、古村翔也（京都府）、岡大晴（岡山県）

逝去

小崎格（茨城県）、常脇恒一郎（兵庫県）
慎んでご冥福をお祈りいたします。